

横須賀市議会議員 無所属

加藤 ゆうすけ

2021 春号

市政報告 vol.22



1 令和3(2021)年度当初予算は1,595億1,000万円

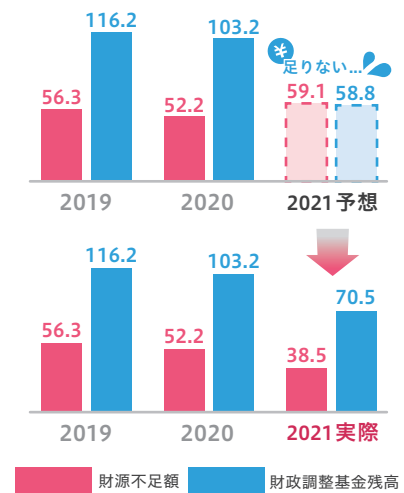
コロナ対策が前面に出る市長施政方針・予算編成となり、金額も前年当初予算比+1.1%と微増しました。また、「横須賀再興プラン（横須賀市実施計画2018-2021）」を掲げた上地市政4年間の最終年度を前に、「投資」という表現が予算編成の基本方針に目立ちます。

一方で、市税収入は約546億円と、前年当初予算比-43億円(-7.3%)の大幅減を見込みます。地方交付税収入も人口減少の影響等を大きく受け減少します。昨年秋（チラシ vol.20）懸念した、当初予算が組めない事態は回避されたものの、厳しい状況は続きます。

2 猿島のトイレ新設について

近年の来島者の増加が既設トイレの処理能力を上回ることから、来島者が安全・快適に過ごせるよう、猿島公園トイレ整備予算が計上され、私が所属する予算決算常任委員会都市整備分科会で審査しました。猿島は貴重な自然林と旧陸海軍の要塞跡が残る国の史跡であり、観光客も多く訪れるため、トイレの整備は重要です。しかし、必要な予算として1億8,975万円（令和4年度までの継続費としては総額3億2,298万6千円）計上されたことから、高額な費用について複数の委員から質問が集中しました。

財政調整基金（万が一のための市の貯金）の推移のグラフ



都市整備分科会でわかったこと

Q. どんなトイレなの？

- ・RC造（鉄筋コンクリート造）1階建ての建物。棧橋横（50m）に設置。
- ・女1・男個室1・小1・バリアフリー1個

Q. なぜ高額なの？

- ①上下水道の未整備、設置面積の制限から、水循環方式の生物処理方式を採用する。
- ②がけ地に設置するため、建物をRC造にした。
- ③液状化対策として地盤改良工事が必要である。
- ④離島であり、会場運搬経費が掛かる。

Q. ニーズは？

- ①現在のトイレは年間来島者6~7万人を想定し建設したものの、最近では年間22万人以上が来島するため、浄化能力が不足している。
- ②女性用トイレが特に繁忙期に行列となる。



分科会終了後、私も市民の皆様にご意見を伺いました。「自分のお金だったらこういう使い方はしない」「観光や、子どものことを考えればちゃんとしたトイレ整備は大切」「必要な整備なので、入園料の値上げで整備しよう」などのご意見をいただきました。これを踏まえ会派で話し合った結果、予算決算常任委員会全体会にて、締めくくりに総括質疑を行い、都市整備分科会では明らかにしきれなかった内容について、市長・担当部長と質疑することに決めました（質疑は同じ会派の嘉山議員が行いました）。

裏面に続きます

予算決算常任委員会全体会でわかったこと

Q. 入園料の値上げは検討したの？

部長：必要性を感じている。受益者負担の観点から、今後検討する。

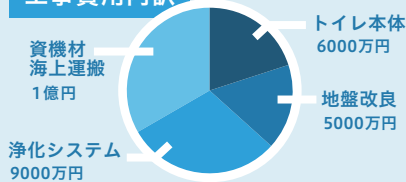
Q. 島外で組み立て、台船で運搬し、現地で工数を減らすことで台船の往復回数を減らし、海上運搬費1億円を少しでも安くできないの？

部長：海上運搬費は、現場での施工をもとに算出しているが、ご提案を踏まえ、工事発注時には工程の再検討をおこない、運搬計画を詳細に詰めたい。

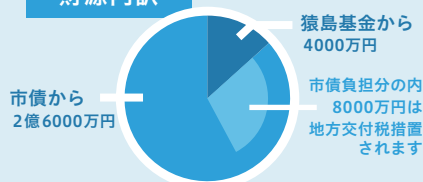
Q. 市長は、どのような考えから来年度予算での整備を決めたの？

市長：観光都市としての更なる発展のため。また、工事期間として8か月必要であり、繁忙期後の今年10月から工事開始しても、完成が来年5月になる。早急に取り組むため、当初予算への計上を決断した。

工事費用内訳



財源内訳



上記を踏まえ私は、整備財源を確保した上で観光資源を保全活用し、市の活力につなげるものと受け止め、この予算を含む新年度予算案に賛成しました。皆様は、どう思われますか？ご意見をお聞かせください！

3 市営公園墓地について

市営公園墓地の芝生墓地に、利用待機者が334件いるにもかかわらず、空き区画があります。待機者は全員、12年前の最後の募集で落選された補欠者です。空き区画を埋めるため、2020年度前・後半150件ずつ、合計300件の利用待機者に順番に声掛けし、150件成約する予定でした。しかし、そもそも150件しか声掛けできず、また長期の利用待機中に事情が変わったことで利用を辞退され、結果37件しか成約せず、**市の収入になるはずだった墓地使用料は予定より約9,500万円少なくなったと2月の補正予算審査にて報告がありました。**

これを受けて、**来年度は声掛けを工夫するのか**と思いきや、3月に新年度予算案で示されたのは、本年度と全く同じ方式。また、**空き区画があるのに利用待ちがいる、という状況になりかねません。**私はマニフェストで「誰もが納得して最期を迎えられるようにします」と掲げました。経済状況・家族構成などに関わらず、誰もが尊厳ある生を全うするために、墓地行政は重要と考えています。これを機に墓地行政のありかたについて質疑しました。

Q. 来年度、声掛けは工夫するのか。▶ 改善方法について具体的には決まっていない。

Q. 334件一斉に年度前半に声をかけ、反応がない・年度途中の墓地返還などを踏まえ、年度後半で再度声をかける形はどうか。利用待機者は2008年度から待機している。辞退する可能性のある方を一気に把握し、再来年度以降の新たな公募につなげてはどうか。▶ 来年度、この空き区画を埋める作業はしっかりとやりたい。

Q. 墓地需要の在り方は変わりつつある。毎年、墓地を返還される方の中に、墓所の継承者がおらず返還される方がいらっしゃる。数十年先を見据えた際に、合祀型合葬墓など区画を区切らないもの、墓の継承者のことを気にせず永代利用できる墓地整備が、行政として目指す方向の一つではないか。他市では、景観に配慮した樹木葬が、ふるさと納税の返礼品にある。また、ペットを飼うかた、独り暮らし高齢者など、多様な墓地需要が今後考えられる。墓地の在り方を改めて考えるきっかけにしてほしい。

▶ 人口が減り、墓地の承継者も少なくなる中でニーズも変わるというのは、おっしゃるとおり。現時点では、今年度まで新たな形として合葬墓を募集した。まずは直近では、補欠者、空き区画を埋めることに注力した上で、様々なニーズにいかに対応するかは、その後考えたい。



横須賀市議会議員 無所属
加藤 ゆうすけ

1988年3月8日生 浦上台出身・在住
特技：中国語
趣味：ドラム・ソフトテニス・つり・カラオケ

県立横須賀高校（58期）、慶應義塾大学法学部政治学科卒。大学在学中に、南開大学（中国・天津）へ派遣交換留学。（株）ワーク・ライフバランス（インターシップ）、アクセンチュア（株）を経て、東日本大震災復興支援のため福島に移住、復興支援団体（一社）Bridge for Fukushima に勤務。また、復興庁福島復興局政策調査官を兼任。その後地元横須賀に戻り、2017年横須賀市議会議員初当選。2019年再選。

YouTube
市政報告動画公開中！



Twitter: @katoyusukeYK
Instagram: yokosuka_ykato

